

看護部

(スタッフ) (H.22年12月1日現在)

看護師 / 助産師総数	(臨時・非常勤を含む)	524人
看護助手	(臨時・非常勤を含む)	16人
事務助手	(臨時・非常勤)	6人
保育士(臨時)		1人
認定看護管理者		2人
がん化学療法看護認定看護師		2人
新生児集中ケア認定看護師		1人
皮膚・排泄ケア認定看護師		1人
緩和ケア認定看護師		1人
集中ケア認定看護師		1人
手術看護認定看護師		1人
感染管理認定看護師		1人
救急看護認定看護師		1人
がん性疼痛看護認定看護師		1人
小児看護専門看護師		1人
県病専門看護師		6人
(ターミナル、KOMI、接遇、糖尿病、医療安全、FC)		
看護方式：プライマリーナーシング		
看護体制：7：1配置(22年11月～)		

(役職員)

副院長 兼看護部長 小野千代子	副部長 野田なおみ 野田直由美 玉井保子	看護師長(4階西) 野川 敦子	副看護師長 野田 英子 小野 美子	主任看護師 倉橋 啓子 宇下 理香
		看護師長(5階東) 佐藤 真由美	副看護師長 平井 知加子 菅原 理恵子	主任看護師 百藤 久恵 谷口 和子
		看護師長(5階西) 中 路 洋子	副看護師長 高橋 裕子 河野 明美 佐藤 英	主任看護師 林田 弘美 岡 薫子 後藤 百合子
		看護師長(6階東) 黒田 初美	副看護師長 高橋 智恵美 野口 寿美	主任看護師 杉野 寿代 亀井 久美子
		看護師長(6階西) 久々宮由布子	副看護師長 藤田 実和 藤原 洋子	主任看護師 橋本 富子 友成 路世
		看護師長(7階東) 河野 伸子	副看護師長 新名 和恵子 浅川 広美	主任看護師 河野 初美 姫野 志麻 佐藤 和子
		看護師長(7階西) 本田 久美子	副看護師長 芦刈 保子 深田 真由美	主任看護師 高山 瑞穂 伊東 律子
		看護師長(8階東) 機 寺 沢 機	副看護師長 相澤 麻里 中村 律子 藤瀬 なるみ	主任看護師 甲斐 尚子 郭 谷 亜子 神志 那瑠子
		看護師長(8階西) 山口 真由美	副看護師長 佐々木 幸美 大嶋 裕美	主任看護師 松尾 美和 佐藤 和英 野田 優子
		看護師長(救急部) 上野 千賀子	副看護師長 渡部 久美子 宮本 まゆみ 岡崎 和代	主任看護師 中請 千恵子 李 本 昌代
		看護師長(外来) 安藤 晴枝 村上 朋子	副看護師長 村上 祐子 中西 美子 安藤 晴美 坂井 綾子 金崎 美和	主任看護師 仲 道 智美 甲斐 洋子 杉本 彰子 山本 美佐子
		看護師長(手術室) 雨 辺 ちよ子	副看護師長 佐々木 祐三子 山本 由美	主任看護師 久保 真佐江 伊藤 美江
		看護師長(ICU・人工透析部) 村上 博美	副看護師長 佐藤 紀代美 大津 佐知江	主任看護師 木井 千織 佐藤 恵子
		看護師長(透析) 河野 恵子	副看護師長 幸 梨香	
		看護師長(産科病棟) 河野 美知子	副看護師長 伊東 くり子 黒木 泰子	主任助産師 甲斐 洋子
		看護師長(NICU) 東 原 清美	副看護師長 佐藤 真由美 柳手 洗仁美	主任看護師 佐藤 久美子 品川 陽子 平川 知子
		医療安全室	副看護師長 妻 和英 宮 成 美 卯	
		がん相談支援センター	副看護師長 町田 朱美	

(実施状況)

平成22年度は大分県立三重病院の統合により大分県に県立病院がひとつになった。統合を機に10月より7：1看護体制が整い、また、平成23年1月に電子カルテが導入された。このように平成22年度は中期事業計画(第一期 平成18年度から21年度)の取り組みの成果—26年ぶりの大幅黒字—を受けて、色々な面で準備の年となった。看護部ではユニホームを一新、ナースキャップを廃止し、新たな気持ちで活動を開始することができた。

大分県立三重病院からは8月から10月にかけて26名の看護師が異動し、前年の異動者と合わせて37名の異動があった。受け入れにあたっては、事前研修、異動時の研修に加え、各部署では教育プログラムの見直しを行い、ともに働く看護師として気持ちをひとつにすることができた。前半の半年間は臨時看護師の獲得が困難で厳しい欠員状況だったが、異動を機に7：1看護体制が整い、勤務環境が改善できた。

7：1看護体制の準備として、第2副師長会が中心になって看護必要度の精度アップを図り、看護師充足度やA・B得点などのデータに基づいて部署の配置人数を決定することができ、また、相互応援も定着した。勤務実績作りでは師長さん方にデータ入力をお願いし、総務の方の協力のもと、10月に実績作り、11月に申請をすることができた。

電子カルテ導入に関しては、「患者さんにやさしい電子カルテ」をコンセプトとし、業務改善のチャンスととらえて推進した。看護部電子カルテ委員会を22～23年度に特設、専従の看護師を中心に看護部全員で取り組んできた。位置づけを師長会と各種委員会の間に設置し、それぞれが役割分担しながら横断的に協働できるようにした。このような組織づくりの中で、他部門との連携を図りながら、各委員や電子カルテ委員がリーダーとなり、各種マスタ作り、操作研修や看護診断研修を行い、スムーズな導入ができた。今後は電子カルテをチーム医療の実践、質の高い看護の提供に有効活用できることが課題である。

このような中で入院患者さんの満足度は若干低下した。しかし、外来中央採血室・処置室が全面稼働し、外来患者さんの待ち時間短縮や安全な環境提供を実現することができた。一方では、院内看護研究やTQM活動にも主体的に取り組み、実践に即した質に迫る内容で、向上心・実践力の高さに驚かされた。認定看護師はがん化学療法とがん性疼痛の2分野が増え、専門・認定看護師は11名となり、チーム医療の推進や看護の質向上に貢献してくれている。看護部全員の協力と努力に感謝する。

大分県病院事業中期事業計画(第二期 平成23年度～26年度)の基本理念は「思いやりと信頼の医療」である。方針の1つ目は高度・専門医療、政策医療等の医療機能の充実である。2つ目は「環境整備」をキーワードとし

て①医療サービス②患者サービス③施設・設備④人材確保・育成についてさらなる充実・強化である。大分県唯一の県立病院として、県民の期待はこれまで以上に高くなる。7：1看護体制と患者情報のIT化を力にして、患者・家族が安心される看護を提供し、県民から選ばれる病院を目指して力を合わせて努力していきたい。

最後になりましたが、3月11日に発生した東北・関東大震災で被害に遭われた方、今なお避難生活を送られている方々にお悔みとお見舞いを申し上げます。大分県立病院もDMATや救護班を派遣しました。派遣に際しては率先して手上げをしてくださり、皆さんの使命感の高さに敬服するとともに感謝の気持ちでいっぱいです。また、たくさんの義援金の協力をありがとうございました。

1. 平成22年度看護部行動目標

- (1) 患者さんと共に看護過程を展開し、プライマリナーナースとしての責任を果たす
- (2) レベル3b以上のアクシデントを防ぐ
- (3) 院内感染防止対策を周知・徹底する
- (4) 院内での褥瘡発生を防ぐ
- (5) 患者満足度・職務満足度のアップが図れる
- (6) 患者・家族が安心して退院できるように連携強化(院内・他部門・他機関)を図る。
- (7) 病床の有効稼働率(88%・14日以内)と7対1看護体制導入の準備と運用ができる。
- (8) 電子カルテ導入の準備ができる
- (9) 災害看護マニュアルの周知ができ、主体的行動がとれる。

2. 看護部の組織活動

11年前より、目標管理を委員会活動に取り入れて、看護の質向上に取り組んでいる。従来の9委員会に2年間特設の看護部電子カルテ委員会を加え、下記の10委員会を設置し、委員長は3名の副部長が担い、運営している。

- | | |
|---------------------|-----------|
| (1) 師長会 | (月2回開催) |
| (2) 第一副師長会 | (月1回開催) |
| (3) 第二副師長 | (月1回開催) |
| (4) 教育委員会 | (月1回開催) |
| (5) 医療事故防止対策委員会(主任) | (月1回開催) |
| (6) 院内感染防止対策委員会(主任) | (月1回開催) |
| (7) 看護部電子カルテ委員会 | (月1回開催) |
| (8) 在宅支援継続看護委員会 | (偶数月開催) |
| (9) 事例検討委員会 | (奇数月開催) |
| (10) 接遇委員会 | (2ヶ月1回開催) |

【師長会】

月2回の開催で病院の運営に関わる検討事項を看護部の視点で検討するほか、委員会報告等を行った。各セクションの目標管理を進め、9月に中間アウト

カム、3月は最終アウトカムを行い、次年度の課題を明確にした。本年のアウトカム発表はパワーポイントによる発表を行い、視覚的にもよくわかる部署分析ができた。

【第一副師長会】

質評価やFCカンファレンスを通してより個別的な看護計画を立案し、実践することで看護の質を高めるよう活動している。また、実践したことが確実に看護記録に残せるようそのあり方を検討するとともに、よりよい実習環境になるよう学生実習を担当している。特に今年度は電子カルテの看護支援システム「看護記録」を担当し、看護プロファイル、看護計画、看護指示、患者スケジュール、看護指示、経過表、SOAP&フォーカス等についてマスタおよび看護記録マニュアルの整備を行い、各スタッフへの指導を行い、スムーズな電子カルテによる看護記録の導入に努めた。

【第二副師長会】

電子カルテ導入に向け、外来及び他部門とで協働して業務改善を行うことと7対1看護体制導入の準備と運用を目標に活動した。他職種との役割・業務分担を考えながら指示簿指示や処置マスタ、クリティカルパスを作成した。パスは87件作成したが、適応率は16.7%であった。次年度は、電子カルテ導入のメリットを活かし効率的に業務を行うために他職種と協働して業務改善を行う必要がある。

看護必要度の精度をあげるために月1回テストと監査を実施した結果、データ分析が可能となった。看護必要度の充足度やA・B得点をもとに7対1看護体制の人員配置数が決定された。部署ではデータを活用し、曜日別の夜勤人数の見直し等を行った。看護必要度のデータに基づいた相互応援の実施には至っていないが、部署の稼働状況に応じて応援が行われるようになってきた。

【医療事故防止対策委員会】

看護部専任のリスクマネージャーが中心となり、各部署代表の主任看護師が現場での医療の安全を守る取り組みを実践している。インシデント・アクシデント件数は、昨年より306件増加し、1432件。ヒヤリハットの場面を意識してレポートに繋げる部署が多くなった背景がある。看護部の報告で多くみられたものは与薬と注射であった。電子カルテ導入後の指示伝達の徹底、効率的な情報収集と伝達の工夫、5Rの確認を徹底していくための具体策の検討、事故防止マニュアルの活用方法を検討していく。今年度レベル3b以上の報告は7件(H21、3件)であった。その中の転倒・転落については、患者の高齢化、重症化、緊急入院等が背景にある。患者の状態を的確

にアセスメントする観察力、判断力を養いタイムリーに看護計画を評価修正していく。

【院内感染・褥瘡防止対策委員会】

専任の副看護師長と皮膚・排泄ケア認定看護師、各部署代表の主任看護師でメンバー構成され感染・褥瘡防止対策に取り組んでいる。サーベイランス・手洗い・針刺し・ファシリティィー・褥瘡の5グループに分かれた委員会活動が定着し、院内看護研究で活動の実践報告を行った。MRSAの発生件数は77件。ノロウィルスのアウトブレイク1件。迅速な発生報告と対策が取れ、最小限の拡大に留めることが出来た。看護部の針刺し事故は、25件発生した。針刺し事故については、マニュアルに添った基本手順の遵守対策、技術指導を含めた研修会を実施していく。褥瘡発生率は0.74%で昨年より増加した。褥瘡カンファレンスを定着させ、発生の要因分析と対策を発生事例に活かすことを検討していく。また、褥瘡監査表を活用し、個別性のある看護計画の立案、評価、修正ができていくか定期的に監査していく。

【看護部電子カルテ委員会】

平成23年1月の導入を目標に、看護部電子カルテ担当看護師を中心とした委員会を立ち上げ取り組んだ。委員会メンバーが計画的にスタッフの操作研修を支援した。導入過程で発生した問題に対して院内他部署と連携し合い、情報を共有し委員としての役割を遂行した。また、看護部の他の委員会と連携し、電子カルテ運用・操作マニュアルの作成に関与した。今後もスタッフへの継続した操作支援、電子カルテに関する新人看護師教育を支援していくと共に電子カルテ導入後の問題点を抽出し検討していく。

【在宅支援継続看護委員会】

患者・家族が安心して退院できるように連携強化(院内・他部門・他機関)を図ることを目標に活動した。退院支援計画書を1月までに376件作成したが、支援開始までに10～20日要する事例が多く、医師やMSWとの連携開始時期が遅い現状である。患者・家族が安心して退院するためには、入院早期から退院への意思決定ができるように支援することが必要である。そのためには入院から48時間以内に退院アセスメントを行い、その結果をもとに他職種で退院カンファレンスを行う必要がある。

看護プロファイルの退院計画に医療・福祉情報と退院アセスメントとを整備したが、活用が不十分である。次年度は退院アセスメントの重要性を説明し、カンファレンス時の情報として退院計画を活用していく。

【事例検討研修会】

平成5年より、看護過程展開能力を高める研修で年

1回開催し、今年度は18周年を迎えた。講師は岡部喜代子先生(宇和島看護専門学校)が担当した。今年度の研修は93名が参加し、事例へのかかわりは看護になっていたか、看護になるためにはどうすればよかったかを検討した。稼働率も高く、在院日数も短期化され、20代・30代看護師が7割を占めるスタッフ構成であるが、看護の質の向上にむけてこれまで以上に事例検討が必要となっている。

【接遇委員会】

患者サービス向上に関するアンケートの結果、人的サービスの平均は4.5(H214.6)。看護の10項目の平均は、4.3(H214.3)であった。在院日数が短縮し、業務が煩雑化して来ている状況の中で、患者に目を向けたケアが実践出来ていると思われる。4月からユニフォームがイメージチェンジし、同時にナースキャップが廃止された。服装と髪型に関する基準を見直し、言葉遣いと身だしなみの改善に取り組んだ。ユニフォームが統一されたことで、気持ちも新たに、県立病院看護師としての責任と自覚、規律と協調性を再確認した。接遇相互チェックを定例化していく。

3. 研 修

看護部では、看護実践能力にすぐれた自律した看護師を育成することを教育理念に掲げて、教育委員会を中心に人材育成に取り組んでいる。平成17年度からはキャリア開発プログラムを構築し、臨床実践能力を高める教育・研修計画を立て、実践している。

臨床実践能力はクリニカルラダーをもとに、次のⅠ～Ⅳ段階に分けて能力評価を行い、各段階別に研修を実施している。Ⅰ段階42名(9.4%)、Ⅱ段階133名(29.6%)、Ⅲ段階164名(36.5%)、Ⅳ段階110名(24.5%) /449名。

本年度は、特に電子カルテに看護診断システムを導入したため、看護診断の研修会をH22年3月から開始し、5月、6月と全体研修を実施した。7月には看護診断事例発表会を開催した。その後、各セクションの学習会と並行し、看護診断学習会を8月～9月週1回の割合で実施した。

【段階別臨床実践能力】

Ⅰ段階：新人レベル

Ⅱ段階：自立的に日常業務を遂行し新人指導をレベル

Ⅲ段階：ロールモデルとなり後輩を育成するレベル

Ⅳ段階：セクションの目標達成に貢献するレベル

今年度の新人教育は、4月新人17名、経験者16名を迎え、スタートさせた。新人教育は集合教育と各セクションでのOJT教育を繰り返しながら実施した。新人オリエンテーションの技術演習やリスク研修は、

研修医を交えて実施し、教育委員や医療事故委員がベテランナースの視点で指導するため、要点が押えられ新人にも好評である。

○J T教育は1対1でのエルダー制で対応し、平成18年度からセクション全体で支援する体制の充実をはかっている。エルダーナースに対しては年3回のエルダー研修の開催、エルダー自己・他者評価のほか、平成20年度からは各セクションでエルダー会を月毎もしくは隔月で開催している。また、セクション内の教育体制を強化するセクションが増え、ペーパーテストやシミュレーションなどを実施したセクションも多くなった。離職率は0であった。

中堅ナースの教育としては、平成20年ローテーションナースの異動後のスムーズな業務に移行させるため、各セクションでローテーションナースの教育プログラムを作成し、その再編集を行った。

また、昨年度から開始した中途採用者（臨時職員）の教育プログラムにより、教育担当が1日病院概要、看護等について説明し、臨床実践能力をアセスメントしたうえで○J T教育に移行している。○J T教育との相互間の情報共有を図ることで、確保と定着化に努めた。

産休・育児休暇中の職員への復帰支援として、年2回ニュースレターを発行し、病院や看護部の状況をお知らせするようにし、復帰者に好評である。復帰前には事前オリエンテーションを実施しスムーズな復帰を促進している。

平成18年度に整備した看護技術のチェック表および手順51項目について、全員の看護技術到達度チェックを行った。アセスメントや救命に関する技術到達度が低い傾向にあり、それに対応する研修を企画運営している。

三重病院の10月統合に向けて、8月から10月にかけて26名を受け入れた。異動時には病院の現状や看護体制・看護業務・教育体制等についての説明や現場実習による研修を実施した。

教育委員を中心に段階別教育計画にそって、主体的学習の支援を行い、専門性を高める研修参加が増加している。一人当たりの研修参加日数は院内8.1(8.5)日、院外2.0(2.4)日の計10.1(10.9)日(H.20年実績)であった。研修実績は別表参照

4. 認定看護師・専門看護師

平成22年度認定看護師取得者は以下の2名である。

がん性疼痛看護認定看護師（川野京子）

がん化学療法看護認定看護師（東田直子）

上記2名の取得者を加えて認定看護師10名、専門看護師1名の計11名となった。また、山本美佐子（がん放射線療法看護）、戸高章子（皮膚・排泄ケア）の2名が2分野の教育課程に合格し、研修を修了した。平成20年度4月から発足した認定看護師、専門看護

師は相互に協力・啓発しあい、患者・家族へより専門性の高いケアの提供を行えることを目的とし、意見交換することで、視野を広げることができ、看護ケアや看護研究などで相互に支援も行うことができた。また、コンサルテーション活動や研修会・研究活動を通して看護スタッフのケアの質向上に貢献できるように取り組んだ。毎月定期的で開催し、規約の作成・活動内容の報告・事例検討などを行った。平成20年8月から毎月ニュースレターの発行継続ができ、専門看護師・認定看護師会主催の研修会を院内外に向けて開催できた。今後も引き続き活動の定着化を図る。

5. 研究発表・講演

平成22年度の院内看護研究発表は48題(H21 48題)であった。全国学会発表数は日本看護学会のみならず、各種の学会投稿も増加し、論文数も増加してきている。院内外の講演依頼も全53例と飛躍的に多くなった。(別紙参照)

看護研究支援は、平成17年度より看護科学大の先生のスーパーバイズを受けているが、今年度は昨年と同様、関根剛准教授（人間関係研究室）、石田佳代子講師（成人・老年看護学研究室）にご支援をいただいた。

過去9年間の看護研究実績

年度	研究発表数	全国学会発表数	論文数
14	35	15	10
15	26	19	12
16	26	15	11
17	30	20	9
18	36	23	13
19	46	47	8
20	47	47	17
21	48	35	8
22	48	50	7

6. TQM活動

看護部は13部署が取り組み、他部門とのコラボレーションが見事に実践でき、組織全体の活性化に貢献できた。優勝は8東「整いました！！転院できます」であった。また、外部発表を7西が大阪済生会中津病院、8東が千葉労災病院で院外発表を行うことができた。(詳細はTQM活動の欄を参照)。

7. 長期研修受講

(1) 久留米大学認定看護師教育センター 放射線療法看護認定看護師教育課程(6/1-11/30)

山本美佐子

(2) 埼玉県立大学認定看護師教育課程(皮膚・排泄

- ケア) (10/1～3/24)
戸高章子
- (3) 看護管理者研修ファーストレベル (5/7-9/24)
5人
(伊東りつ子、鎌田美保、久保真佐子、野口寿美、御手洗仁美) 計5名
- (4) 大分県認定看護管理者研修セカンドレベル教育課程 (9/2～12/18)
久々宮由布子、村上博美
- (5) 日本フォーカスチャータリング協会FC認定看護師養成コース研修 (10/7-10/11)
川上祐佳
- (6) NST専門療法士実習
新日鉄八幡記念病院 (5/24～5/28)
渡辺朝子

- (11) アンギオ研修
豊後大野市民病院 6名
(10/26～28, 11/9～11/11, 11/16～11/18)
- (12) 事例検討会研修 (2/27)
津久見中央病院 3名

10. 看護部主催イベント

イベント名	開催月日
ひな祭りコンサート	3月2日
看護の日イベント	5月12日
たなばたコンサート	7月7日
バザー	12月9日
クリスマスコンサート	12月24日

患者さんから気持ちがあごんだ、リラックスできた、気分が変わったとよい評価を得ている。

9. 研修・実習・見学受け入れ

大分県立看護科学大学学生実習で新カリキュラムが導入され、1年次での基礎看護実習が開始された。

- (1) 看護科学大学学生実習 (計29週)
- ① 1年次：初期体験実習 4名1週間
基礎看護学実習 47名2週間
- ② 2年次：基礎看護学実習 48名2週間
看護アセスメント実習 48名2週間
- ③ 3年次：成人・老人・小児・母性看護実習 82名12週間
- ④ 4年次：総合実習 3名2週間
助産学実習 9名2週間
- ⑤ 助産学実習 (大学院・学部編入)
助産学実習：7/5～7/16 (3名)
妊娠期診断学実習：9/16, 9/31 (3名)
NICU実習：10/18～10/29 (3名)
- (2) 藤華看護専門学校ハイリスク実習 (12/6～12/24) 12名
- (3) 別府医師会立看護専門学校母性看護実習 (2/21～4/2) 17名
- (4) 病院見学会 (5/22・8/11) 27名
- (5) ナースセンター訪問看護研修ステップ1実習 (5/25) 実習生2名
- (6) 別府大学付属看護専門学校 通信制 母性看護学実習 (8/2～8/31) 30名
- (7) 認定看護師実習
・大分県立看護科学大学訪問看護認定看護師 退院調整実習 (11/25～11/26) 4名
- (8) 専門看護師実習 (6/1～6/10, 8/30～9/7)
高知女子大学看護学研究科小児看護学専攻 1名
小児看護実践演習Ⅱ-NICU実習
- (9) 地域医療連携実習 (9/14)
湯布院厚生年金病院 2名
- (10) 柳ヶ浦高等学校病院見学 (2/14・15) 65名

(今後の方向性)

- より安全で効率のよい看護サービスの提供
- プライマリーナースとしての責任を果たせる自律した看護師の育成
- 専門性の高いスタッフの育成と活用
- 7：1看護体制の効果的な運用
- 病床の有効稼働と退院調整のための連携強化
- 電子カルテの効果的な運用
- 災害看護の推進

(文責：小野千代子)

平成 22 年度看護部教育研修開催状況

開催月日	内 容	性 格	講 師 等	参加者 (人数)
4/1 ~ 4/2	新採用者オリエンテーション Part I 院内組織と業務分担・看護部の方針と業務、院内規定・院内教育システム	新採用者研修	看護部他	4/1: 新採用職員 (32) 4/2: 新採用職員 (22)
4/5 ~ 4/9	新採用者オリエンテーション Part I 自治体病院の役割と課題・服務福利厚生・接遇演習・看護記録・医療安全・看護論・技術演習 (手洗い・無菌操作・注射・採血・搬送・安楽・静脈注射)	新採用者研修	院長他看護部教育委員	新採用職員 (33)
4/12 ~ 5/14	新採用者オリエンテーション Part II	新採用者OJD	各セクション看護師長 教育委員 エルダーナース	新採用職員
4.16	看護研究ガイダンス	看護研究	教育担当: 玉井保子	看護師 (26)
4/20 ~ 22	新採用者オリエンテーション Part I 技術演習 (輸液ポンプ・救急看護)・手術室、中材、各種医療機器・薬剤部との関連業務・放射線と安全	新採用者研修	看護部教育担当看護部教育委員感染委員他	新採用職員 (26)
4.22	事故防止のための新人研修「与 薬」	リスク研修	医療事故防止対策委員 安管室 秦 和美	新採用職員 (26)
4.22	事故防止のための新人研修「処方箋・注射箋の見方・システムの確認」	リスク研修	医療事故防止対策委員 安管室: 秦 和美	新採用職員 (26)
4.22	事故防止のための新人研修「薬剤の知識 (インスリン・ステロイド・輸血他)」	リスク研修	医療事故防止対策委員 安管室: 秦 和美	新採用職員 (26)
4.22	事故防止のための新人研修「報告・申し送りのポイント」	リスク研修	医療事故防止対策委員 安管室: 秦 和美	新採用職員 (26)
4.22	事故防止のための新人研修「グループワーク」	リスク研修	医療事故防止対策委員 安管室: 秦 和美	新採用職員 (26)
5.6	看護助手研修	看護助手研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	看護助手・事務助手 (17)
5.10	看護診断	看護過程	大分県立看護科学大学 藤内美保 氏	看護師 (120)
5.14	エルダー会	エルダー研修	看護部教育担当	今年度のエルダーナース (16)
5.16	リーダーシップ研修	看護管理	熊本大学 吉田道雄 氏	看護師 (88)
5/17 ~ 8/13	新採用者オリエンテーション Part III	新採用者OJD	各セクション看護師長 教育委員 エルダーナース	新採用職員
5.18	3年目看護師 「リスクマネジメント (1)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	3年目看護師 (16)
5.25	3年目看護師 「リスクマネジメント (2)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	卒後3年目看護師 (13)
5.27	ストーマケア①	専門コース	宮成美弥 (CN: 認定)	看護師
6.3	KOMI理論 ターミナルケア グループワーク	看護教育	野桐春美 中路洋子 大坪洋子	新人看護師 (23)
6.4	2年目看護師 「リスクマネジメント (1)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	卒後2年目看護師 (12)
6.4	災害訓練研修会	災害	救急看護認定看護師 石丸智子	看護師
6.7	FC研修	看護記録	FC認定委員 東原、河野、田中	臨時看護師 (18)
6.9	看護過程コース A	看護過程	看護部教育担当	2年目看護師 (16)
6.11	卒後3年研修 看護過程研修 D	看護過程	野田真由美 古庄好美 看護部教育担当	卒後4年目看護師 (16)
6.11	救急看護①	専門コース	救急看護認定看護師 石丸智子	看護師
6.12	TQMリーダー研修	小集団活動	人材育成研究所 立川義博氏	看護師他 (42)
6.8	集中ケア①	専門コース	小川 央 (CNS: 認定)	看護師

平成 22 年度看護部教育研修開催状況

開催月日	内 容	性 格	講 師 等	参加者 (人数)
6.10	卒後3年研修 看護過程研修 D	看護過程	野田真由美 古庄好美 看護部教育担当	卒後4年目看護師 (18)
6.17	看護過程コースB	看護過程	中路洋子 看護部教育担当	卒後2年目看護師 (16)
6.17	ストーリーケア②	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
6.18	2年目看護師 「リスクマネジメント (2)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	卒後2年目看護師 (13)
6.18	小児看護①	専門コース	佐藤久美子 (CN:認定)	看護師
6.28	看護診断研修会	看護過程	大分県立看護科学大学 藤内美保氏	看護師 (120)
7.9	事故防止のための研修 part II 「化学療法の知識と注意点」	リスク研修	がん化学療法 看護認定看護師 東田直子	新人看護師 臨時採用者 経験3年未満看護師から希望者 (27)
7.9	手術看護①	専門コース	高村智子 (CN:認定)	看護師
7.13	FCリーダー研修	看護記録	FC認定看護師 河野明美 東原清美	FCリーダー (18)
7.14	4年目看護師 看護過程 D 事例発表会	看護過程	教育担当	4年目看護師他 (18)
7.14	看護部災害研修会	災害看護	救命看護認定看護師 石丸智子	看護師
7.15	ストーリーケア③	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
7.26	看護診断事例発表会	看護過程	大分県立看護科学大学 藤内美保氏	看護師 (130)
7.30	小児看護②	専門コース	佐藤久美子 (CN:認定)	看護師
8.10	FCリーダー研修	看護記録	FC認定看護師 河野・東原・田中	看護師他 (18)
8.24	TQMヒアリング (講師による現場指導)	小集団活動	人材育成研究所 立川義博氏	TQM メンバー
9.1	集中ケア①	専門コース	小川 央 (CN:認定)	看護師
9.3	手術看護③	専門コース	高村智子 (認定)	看護師 (8人)
9.3	看護過程 C 研修 看護過程発表	看護過程	看護部教育担当	2年目看護師 (15)
9.7	看護診断研修	看護過程	教育担当: 玉井保子	看護師 (40)
9.8	2年目看護師 「リスクマネジメント (3)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	2年目看護師 (16)
9.10	エルダー会	エルダー研修	教育担当: 玉井保子	今年度のエルダーナース (17)
9.14	FCリーダー研修 (4)	看護記録	FC認定指導員	FCリーダー (18)
9.15	救急看護④	専門コース	石丸智子 (CN:認定)	看護師
9.17	点滴実技研修	看護技術	感染委員会 ICN: 大津佐知江	新人看護師他
9.24	新生児看護①	専門コース	佐藤久美子 (認定)	看護師
9.28	点滴実技研修	看護技術	感染委員会 ICN: 大津佐知江	新人看護師他
9.29	2年目看護師 「リスクマネジメント (3)」	リスク研修	教育担当: 玉井保子 安管室: 秦 和美	2年目看護師 (13)
9.30	ストーリーケア④	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
10.1	手術看護④	専門コース	高村智子 (CN:認定)	看護師
10.6	集中ケア②	専門コース	小川 央 (CN:認定)	看護師
10.8	看護助手研修 「リスクマネジメントについて」	看護助手	教育担当玉井保子 安管室: 秦 和美	看護助手 (17)
10.8	救急看護④	専門コース	石丸智子 (認定)	看護師
10.12	FCリーダー研修	看護記録	FC認定指導員	FCリーダー (18)
10.13	感染管理	専門コース	大津佐知江 (CN:認定)	看護師
10.14	第2回TQM巡回ヒアリング	小集団活動	立川義博氏	
10.19	FC研修	看護記録	FC認定指導員	臨時・三重異動者 (23)
10.22	新生児看護④	専門コース	佐藤久美子 (CN:認定)	看護師

平成 22 年度看護部教育研修開催状況

開催月日	内 容	性 格	講 師 等	参加者 (人数)
10.23	フィジカルアセスメント研修	看護実践	小川 央 (CN:認定)	II 段階看護師
10.27	感染管理②	専門コース	大津佐知江 (CN:認定)	看護師
10.27	緩和ケア	看護実践	川野京子 (CN:認定)	新人看護師
10.28	褥瘡ケア①	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
10.29	周手術期の看護	看護実践	高村智子 (CN:認定)	新人看護師
11.1	集中ケア③	専門コース	小川 央 (CN:認定)	看護師
11.8	感染管理③	専門コース	大津佐知江 (CN:認定)	看護師
11.9	FCリーダー研修	看護記録	FC認定相談員	
11.6	集中ケア⑤	専門コース	小川 央 (CN:認定)	看護師
11.12	新人リスク研修① 事故防止のための研修 part II 「事故防止のための必要なエビデンスとマニュアル①」	リスク研修	安管室: 秦 和美	新人看護師 (15)
11.19	褥瘡ケア⑥	専門コース	宮成美弥 (認定)	看護師
11.26	新人リスク研修② 事故防止のための研修 part II 「事故防止のための必要なエビデンスとマニュアル②」	リスク研修	安管室: 秦 和美 教育担当	新人看護師 (22)
11.26	新生児集中ケア③	専門コース	佐藤久美子 (CN:認定)	看護師
11.29	感染管理④	専門コース	大津佐知江 (CN:認定)	看護師
11.29	実習病院対象電子カルテ操作研修	電子カルテ	電子カルテ: 河野明美他	看護大教員 (9) 別府医師会立 (3)
12.4	TQM発表会	小集団活動	人材育成研究所立川義博氏	看護師他
12.7	電子カルテ説明: 医療秘書研修	医療秘書研修	教育担当: 玉井保子	医療秘書 (5)
12.10	第3回エルダー会	エルダー研修	教育担当: 玉井保子	エルダー (18)
12.13	事務助手研修	事務助手研修	教育担当: 玉井保子	事務助手 (6)
12.15	褥瘡ケア⑥	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
12.16	褥瘡ケア⑥	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
12.22	電子カルテ説明: 事務助手研修	事務助手研修	教育担当: 玉井保子	事務助手 (6)
1.12	看護管理基礎研修① (医療情勢と看護専門職)	看護管理	副院長: 小野千代子	III 段階看護師 (60)
1.13	看護研究研修 (看護研究の発表の仕方)	看護研究	教育担当: 玉井保子	研究発表者 (22)
1.19	看護管理基礎研修② (病棟マネジメント)	看護管理	副部長: 黒田なおみ	III 段階看護師 (48)
1.19	褥瘡ケア④	専門コース	宮成美弥 (認定)	看護師
2.2	看護管理基礎研修③ (円滑な看護業務の実践)	看護管理	副部長: 野田真由美	III 段階看護師 (52)
2.5	院内看護発表会	看護研究	看護部教育委員会	看護師 (120)
2.9	看護管理基礎研修④ (人材育成とキャリアアップ)	看護管理	副部長: 玉井保子	III 段階看護師 (53)
2.16	看護管理基礎研修グループワーク⑤	看護管理	小野千代子・黒田なおみ 野田真由美・玉井保子	看護師 (32)
2.16	褥瘡ケア⑤	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
2.18	三重病院異動者研修	看護管理	教育担当: 玉井保子	三重病院異動者 (26)
2.19	フィジカルアセスメント研修	看護実践	小川 央 (CN:認定)	新人看護師 (25)
2.27	事例検討研修会	看護過程	看護部教育委員会 宇和島看護専門学校長 岡部喜代子 氏	看護師 (93)
2.25	褥瘡ケア②	専門コース	宮成美弥 (CN:認定)	看護師
3.7	摂食・嚥下の方法①	専門コース	湯布院厚生年金病院 認定看護師: 木本ちはる 氏	看護師 (30)
3.14	摂食・嚥下の方法②	専門コース	湯布院厚生年金病院 認定看護師: 木本ちはる 氏	看護師 (30)
3.25	エルダー研修	エルダー研修	看護部教育担当	次年度のエルダーナース (10)